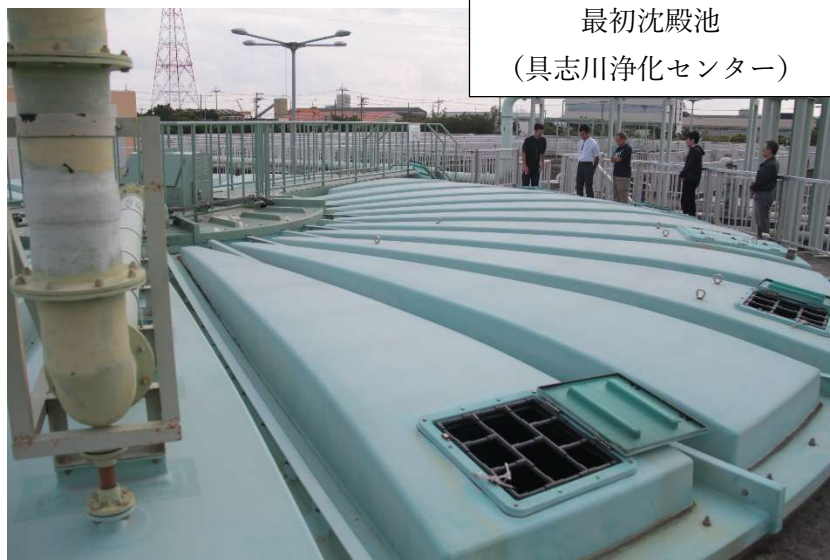


第 13 期沖縄市水道モニター会議（第 5 回） 活 動 報 告 書

下水道工事 資材
(市内ヤード)



最初沈殿池
(具志川浄化センター)



令和 7 年 12 月 12 日（金）開催
沖縄市上下水道局総務課企画係

第13期沖縄市水道モニター会議（第5回）活動報告書

【概要】

日 付：令和7年12月12日（金）

時 間：13：30～17：00

場 所：市内ヤード・具志川浄化センター

参加者：水道モニター2名、総務課 企画係

日 程：13：30～集合・移動 →14：00 資材見学（沖縄市内） →15：00 施設概要説明・
見学（具志川浄化センター） →17：00 事務連絡、解散

【活動内容】

第13期沖縄市水道モニター会議（第5回）を開催し、今回は市内下水道工事現場見学および具志川浄化センターの施設見学を行った。日々の暮らしの中で、排出される生活排水は下水道管の維持管理、適切な下水処理をもって環境衛生が保たれている。その内容を現地でみることで、より深く理解することを今回の会議の目的とする。

まず初めに、下水道工事（雨水）現場において、使用される資材を保管場所にて見学した。下水道工事に使用される資材は、施工後には地中へ埋まってしまうことから、中々見かけないものだが、管径の大小や形状など様々なタイプがあることを知った。現場の環境において、施工方法や使用する資材が変わることを担当者から教わった。

水道・下水道工事ともに、工事が完了したときに目に見えた成果物を確認することはできないが、今回話を聞いたことで、インフラを支える大きな役割を担っていることを知ることができた。

続いて、汚水が最終的に流れ着き、処理される浄化センターを見学した。担当者より施設概要等の基本的な説明を受けた後、実際に下水が処理される様子を見学した。

実際に汚水が処理されている付近を見学したが、想像よりにおいが気にならないことに驚いた。処理中に発生するにおいには特段の配慮をしているとのこと、土壌を活用した脱臭処理などの様々な工夫が施されていることを知った。

また、処理後の放流水については工業用としては工事現場の粉塵対策への活用、また、さとうきび等の農作物への灌水に利用したりする方への提供も行っているとのことだ。

下水処理にかかる工程や施設の運営を現地で見学したことで、料理や洗濯などの生活行為において排出される下水を、我々も適正に処理することで施設運営にかかるコストの負担軽減や環境や川や海の生物への影響を減少させることにもつながるということを改めて学ぶ機会となった。

今回の会議をとおして、我々は水道を使用する際に水質やにおい、味などに敏感となるが、使用した後の排水処理の仕方にも目を向ける必要があり、それは水を利用する者としての責務だということを実感した。

- ・水道モニター会議での質疑応答やアンケート回答は以下にまとめる。

【質疑応答内容（抜粋）】

（雨水工事現場見学における質疑応答）

質問①）下水道管の口径は、何で決まりますか。

回答①）流域面積から割り出される、水量によって決まります。

質問②）管の形状で丸型と四角型がありますが、どのように使い分けているのですか。

回答②）敷設する環境により、使い分けています。管を埋める深さに決まりがあり、その基準に満たすために使い分けます。

質問③）下水道管の保守管理（調査等）はどのように行っていますか。

回答③）人が目視で調査したり、最近ではドローンや小型ラジコンなどを活用して調査しています。

（具志川浄化センター見学における質疑応答）

質問①）污水处理によって発生した汚泥はどうされるのですか。

回答①）汚泥を堆肥化して、肥料などに活用されることもあります。また、汚泥処理時に発生する消火ガスを発電事業者へ供給しています。

質問②）活性汚泥の微生物は何が使われているのですか。

回答②）代表的なものとして、ボルティセラやエピステリリスなど様々な微生物のはたらきにより、よごれが分解されています。

質問③）放流水についても活用はあるのですか。

回答③）道路工事の散水や農作物への灌水に利用する方へ提供しております。

【モニターアンケート回答（抜粋）】

●今回の現場・施設見学で学んだこと・感じたこと等

- ・雨水工事の資材や工法。浄化センターでの処理方法など。

- ・【市内下水道工事現場】沖縄市内の雨水排水の問題は一応認識はしていましたが、通常の生活をしている中では見えない所と思っていた以上の規模で対策工事をしていた事に更に興味を持ちました。工事の手法についても知らない技術が色々であり、可能ならば施工状況についてもう少し詳しく知りたかった。

【具志川浄化センター】最近「嫌悪施設」と呼ばれる NIMBY (Not In My Backyard) という言葉を知りました。少しでも悪い印象を持たれない為に、下水処理場を現在「浄化センター」となっている事に気付かされました。施設の規模の割に県職員が少なく、現場のほとんどは外部業者によって動いている事が想定外でした。生活排水の中でも化学物質は少なからず排出されていると思うのですが、汚水浄化のプロセスで「水質検査」が無いにも拘らず、残渣汚泥が肥料になっている事に驚いた。浄化処理にはもっと時間

が必要だと想像していましたが、海中放出までの時間が思っていたよりも短かった。

●水道モニター会議におけるご意見やご要望

- ・実際の工事現場を拝見したかったが、ほぼ夜間工事のみということで、見学する機会そのものが少ないということを知りました。
- ・見学施設でのビデオ解説があるのでしたら、事前学習の意味を含めて、当日の見学時間を充実させる為に、可能でしたら先に見ておきたい。せっかく施設見学をするのであれば、全部見ておきたい。

【会議写真】



▲現場見学（下水道工事資材見学）



▲施設見学（具志川浄化センター）



▲現場見学（下水道工事資材見学）



▲施設見学（具志川浄化センター）



▲現場見学（下水道工事資材見学）



▲施設見学（具志川浄化センター）